



いしだ たかのり  
石田 孝宣 教授

～ 乳腺・内分泌外科学分野 ～

講義題目

日本における乳癌死亡率を  
減少させるために

【略 歴】

1987年 3月 東北大学医学部医学科卒業	1997年10月 秋田県厚生農業協同組合連合会由利組合総合病院
1987年 6月 岩手県立中央病院	1998年 3月 東北大学大学院医学系研究科博士号 (医学) 取得
1989年 4月 長井市立総合病院	2000年 1月 東北大学医学部附属病院助手 (復職)
1991年 7月 公立気仙沼総合病院	2004年10月 東北大学医学部附属病院講師
1992年 1月 岩手県立大船渡病院	2008年 4月 東北大学大学院医学系研究科准教授
1993年 3月 東北大学医学部附属病院医員	2017年 4月 東北大学大学院医学系研究科教授
1997年 7月 東北大学医学部附属病院助手	2025年 3月 退職

【研究業績等の紹介】

石田孝宣教授は、1987年3月に東北大学医学部を卒業され、初期研修の後、1989年4月に東北大学医学部第二外科に入局された。東北大学では、乳癌における乳管内進展病巣の臨床病理学的意義と生物学的特性の解明に貢献された。特に、乳管内進展の進展様式を3次元検索で解析し、これらの進展と断端陽性率、温存乳房内再発率およびMUC1抗原、Sialyl-Tn抗原、c-erbB2 (HER2)、p53などのバイオマーカーとの関連を世界で初めて明らかにされた。また、術中迅速病理診断や体表マーカー使用による乳房温存手術術式の臨床的有用性についても示された。

さらに、大規模 RCT「乳がん検診における超音波検査の有効性を検証するための比較試験：J-START」では、マンモグラフィと超音波を併用することで、Stage Iの早期浸潤癌が有意に多く発見され、感度が14%上昇する一方で特異度が有意に低下することを明らかにし、Lancet誌で報告された。

加えて、東北大学病院においてPhase IIIの国際共同治験の責任医師として30件以上の新規薬剤の開発に関わる国際共同臨床試験に積極的に参加、主導された。

また、東北大学大学院医学系研究科の分子機能解析学分野との共同研究で、耐性株を用いて乳癌内分泌療法の耐性機序の解明に取り組み、病理検査学分野・病理診断学分野との共同研究では、乳癌の内分泌環境の解明や予後因子・治療標的因子となる数多くのバイオマーカーについて報告された。

これらの研究成果をもとに、216 篇の英文原著論文を発表され、臨床医の診療指標となる『乳癌診療ガイドライン（日本乳癌学会編、金原出版）』、患者さんやご家族へのガイドライン解説書『患者さんのための乳癌診療ガイドライン（日本乳癌学会編、金原出版）』、乳癌専門医の教科書『乳癌腫瘍学（第 1～4 版）（日本乳癌学会編、金原出版）』、さらに乳癌外科医の手術書『乳癌外科の要点と盲点（第 3 版）（文光堂）』などを出版された。

また、日本外科学会専門医・指導医、日本乳癌学会専門医・指導医、厚生労働省麻酔科標榜医を取得された。他にも、多くの領域で積極的に学会活動を行い、特に日本乳癌学会では理事長を務められた。さらに、日本乳癌検診学会副理事長、日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会副理事長、日本外科学会代議員、日本遺伝性乳癌卵巣癌総合診療制度機構（JOHBOC）理事、日本乳がん検診精度管理中央機構理事、日本癌治療学会代議員、など主要関連学会の要職を歴任され、日本の乳癌医療をリードするとともに、幅広い領域で社会貢献に尽力された。